特別賞作品

文部科学大臣賞

神奈川県横浜市
城田　六郎

酒匂川畔村酒

嶽麓發源清冽川
麴塵粳稲僻村傳
緑醅初熟醍醐味
一斗十千何惜銭

酒匂川の畔の村酒

岳麓に源を発す清冽の川
麴塵粳稲僻村に伝う
緑醅初めて熟し醍醐の味
一斗十千何ぞ銭を惜しまんや

（酒匂川は、富士山の麓に源を発し、清らかで冷たい川である。麴のかびとうるちの稲は、ひなびた村に伝わっている。緑色のもろみ酒は、ちょうど熟したばかりで最上の味がする。一斗一万銭もするが、どうして銭をおしむことがあろうか。）

国民文化祭実行委員会会長賞

岐阜県可児市
大川　昌彦

初秋即事

碧天如水月如眉
秋到郊墟蟲語滋
半夜茅齋燈未盡
桂花香裏獨題詩

初秋即事

碧天水の如く月眉の如し
秋は郊墟に到りて虫語滋し
半夜の茅斎灯未だ尽きず
桂花香裏独り詩を題す

（空は晴れ渡り、静かな水面のように冷ややかである。そして、そこには眉のような三日月が浮かんでいる。秋の気配を感じる涼しい季節になた。庭では、盛んに虫の鳴き声が聞こえる。夜半、粗末な茅葺きの書斎は、まだ灯が尽きない。独り詩を題していると、何処からか桂花の良い香りが、部屋の中にまで漂って来た。）

宮崎県知事賞

香川県観音寺市
翠泊　田片　博伸

高千穂峡

危巖磊磊翠微間
一棹荷雲于往還
雷鼓落溪懸練帛
飛湍千仞截青山

高千穂峡

危巖磊々たる翠微の間
一棹雲を荷いて于に往還す
雷鼓渓に落ちて練帛を懸け
飛湍千仞青山を截つ

（みどりの山気に包まれる中、岩が重なり、壁のように険しくそばだつ崖を映す水面。浮遊する白雲の上を、漕ぎ出した一艘の舟が来往する。すわ落雷か。山峡をつんざく轟音。まるで真っ白な練り絹を懸けたかのような滝ほとばしり落ちる一道の流れが、千仞の高みから青山をばっさりと截ち分かつ。）

第三十五回国民文化祭宮崎県実行委員会、
第二十回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞

愛知県名古屋市
珠光　髙取　真里

探花

深渓雨霽鳥聲度
嶮路霧開花氣通
探得姚黄玄圃裏
玉容綽約笑春風

探花

深渓雨霽れて鳥声度り
嶮路霧開いて花気通ず
探し得たり姚黄玄圃の裏
玉容綽約として春風に笑む

（古代中国における長く辛い勉学の末、優秀な成績で科挙に合格した者が得られた「探花」という称号の謂れをヒントに、探し得た希望の光は仙界に玉のように美しく微笑む牡丹の花であった。嘗て若者が花を探して名園を巡る幻想的な世界に心を遊ばせてみました。）

宮崎県教育委員会教育長賞

神奈川県川崎市
篪軒　住田　笛雄

賞國寶土器有感

縄文火焔至今遺
穰禱齋祈憶昔時
一萬年前民族技
寰球無類贊神奇

国宝の土器を賞して感有り

縄文の火焔今に至るも遺る
穰禱斎祈昔時を憶ふ
一万年前の民族の技
寰球に無類神奇を賛ふ

（東京国立博物館で、国宝の火炎土器を鑑賞した。我々の知識では、日本の縄文時代は、紀元前一千年、つまり今から三千年前くらいから、ということであったが、その後の発見や時代測定技術の進歩で、この土器は実に一万年前に作成されたという。しかも、当時には、地球上のどの民族も、このような精巧な土器を造る技術を持った者はなく、地球上に類を見ない優れたものであるという。これを知って、深く感動し、また感激した。この感動と感激を「有感」として謳いあげた。）

宮崎市長賞

大阪府堺市
鳳鳴　山本　武雄

看國寶天目茶碗

瑠璃玉碗鬼神功

悠久時空誘我躬

青彩斑紋恰銀漢

恍然宇宙衆星中

国宝天目茶碗を看る

瑠璃の玉碗鬼神の功

悠久の時空に我が躬を誘う

青彩の斑紋恰も銀漢

恍然宇宙衆星の中

（去年、国宝の曜変天目茶碗三碗が、同時に三会場で展示され大きな話題となりました。わずか十三センチの小碗は光を当てると瑠璃色に輝き「小碗の中の大宇宙」と古くから人々を魅了してきました。まさに神業であり、悠久の時空に引き込まれます。青く輝く模様は銀河の星の如く美しく浮かび上がり、まるで宇宙の世界にいるようです。）

第三十五回国民文化祭、第二十回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会会長賞

三重県桑名市
穎風　伊藤　秀治

與垂釣人

殘蓑破笠釣絲垂
幾度投竿魚影稀
江霧濛濛稚烟雨
勸君今夕買鱸歸

垂釣の人に与う

残蓑破笠釣糸垂れ
幾度か竿を投ずれど魚影稀なり
江霧濛々として烟雨に雑じわる
君に勧む今夕鱸を買って帰れ

（新型コロナン騒動で思いがけず暇を得て、旧詩を改めることが出来ました。今回の詩もその一つです。転結はそのままで結句をにらみ承区の下三字を「魚影稀」、起句の下三字を通韻の「釣絲垂」としてなんとか纏めることが出来ました。）

宮崎市教育委員会教育長賞

京都府京都市
徠山　原　肇

題牧童杏花圖

牧童杏花園に題す

江南一路好春華

江南一路好春華

牛背牧童持杏花

牛背の牧童杏花を持す

試問樊川何處去

試みに問う樊川は何処に去るかと

笑而不答指天涯

笑って答えず天涯を指す

（毎年春になると、俳画家の山口八九子が描く「牧童杏花圖」を床の間にかけて、杜牧の世界を楽しんでいます。牧童と杏花をモチーフとした詩は昔から数多くあり、新規性を出すのは難しいですが、かえってやさしい詩語を使って平凡に詠み込んでみました。「笑而不答」はもちろん李白の「山中問答」から借用しています。）

宮崎県芸術文化協会会長賞

熊本県熊本市
瓊泉　林　孝子

閑居偶成

野鶴孤雲是此身
茅簷守拙樂清貧
曲肱漫嘯陶仙句
自擬園田歸去人

閑居偶成

野鶴孤雲是れ此の身
茅簷拙を守り清貧を楽しむ
肱を曲げて漫ろに嘯す陶仙の句
自ら擬す園田帰去の人

（野にすむ鶴か離れ雲のように、世俗を離れて暮らしているこの私。粗末な家で、世渡り下手ながらも清貧に甘んじ、気楽な日々を楽しんでいる。肱を枕に陶淵明の詩など口ずさんでは「我、五斗米の為に腰を折る能はず」と官を辞して故郷の田園に帰った淵明に、自分を擬えてみたりしているのです。）

全日本漢詩連盟会長賞

神奈川県座間市
泰山　岡田　泰男

高千穂峡寫望

高千穂峡写望

澗水安流湛幽壑
石林相對挾蒼江
開闢以來遮俗韻
峽天鳥道峻無雙

澗水安流して幽壑に湛え
石林相対して蒼江を挾む
開闢以来俗韻を遮る
峽天鳥道峻無双

（谷の水は昼猶ほ暗い谷底に満ちて、両岸に聳えた石崖は柱のようにせいぜんと並び江を狭めている。天地の別れし太古より神秘的な佇まいは世俗を遮る、狭谷は井坐観天の如く、山路は鳥が去来するのみ、この厳峻な秘境は天下無双なり。）

宮崎県漢詩連盟会長賞

愛知県津島市
條風　赤堀　哲雄

賞蓮

早晨野歩散殘煙
風送幽香古沼邊
仙女新粧如有約
水心邀我玉冠鮮

賞蓮

早晨野歩残煙散じ
風は幽香を送る古沼の辺り
仙女新たに粧い約有るが如く
水心に我を邀えて玉冠鮮やかなり

（早朝、野を歩いて古沼の辺りに来るとモヤが消え、風が仄かに良い香りを送って来た。蓮の花がまるで私との約束があったかのようにいつの間にか咲き、水心に綺麗な冠を着けて私を迎えてくれた。）

宮崎日日新聞社社長賞

東京都新宿区
香雪　田中　和子

茅舎孤蛩

庭前風冷月光流
軒下幽叢白露浮
何處孤蛩聲切切
殘生如惜自牽愁

茅舎孤蛩

庭前風冷やかにして月光流れ
軒下の幽叢白露浮かぶ
何れの処か孤蛩声は切々
残生惜しむが如く自づから愁いを牽く

（新涼まだ眠れぬ夜、粗末な家の庭前を風が冷やかに吹いている。月の光が遠く窓にあたり軒下の叢に白露が浮かぶ。何れの処に鳴いているのか孤蛩の声は、細く切れ切れであたかも自分の残生を知るかのように、悲しく寂しい。この胸にせまる思いは、惜れで愁いを引く。）

ＮＨＫ宮崎放送局局長賞

群馬県佐波郡
蕙華　岡部　徳子

游高千穂峡

高千穂峡に游ぶ

似砦崖壘聳碧天
砦の似き崖塁碧天に聳え

瀧瀧瀑布濺深淵
滝々たる瀑布深淵に濺ぐ

龍神頃刻浸鱗處
龍神頃刻鱗を浸す処

回櫂孤舟風颯然
櫂を回して孤舟風颯然たり

（砦の様な崖が、青空に向かって聳えたち、滝々と流れる滝の水は、深い淵に濺いでいる。ここは、龍神がしばらくの間、鱗を浸し、憩う所かも知れぬ。小舟が向きを変えると、風がさっと吹き抜けた。）

若年奨励賞

福井県福井市
吉田　桜子

初冬偶成

落葉成堆霜氣濃
冷雲漠漠瘦山容
茶梅破蕾南軒下
短日飜影入初冬

初冬偶成

落葉堆を成して霜気濃やかに
冷雲漠々として山容瘦す
茶梅蕾を破る南軒の下
短日影を飜し初冬に入る

（冬の訪れを感じる頃の情景を詠みました。落ち葉が降り積もった庭一面に、今朝は真っ白く霜が降り、空を仰げば、冷たい雲が連なり合って、山の姿もすっかり痩せてしまったようです。それでも南の軒下では、山茶花が花を咲かせようとさいます。暮れやすい日が日差しを飜し、季節はいよいよ、冬に入ろうとするようです。）